

六十四 男子厄払い詞

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天
理教 分教会長 慎んで申し上げます

この 県 市 町 番地に住まわれ

る 氏は親神様の広く高い親心に生かされ守られて
かしものの体を今日まで壮健にお貸し頂き 両親も健在で
家内や子供達にも恵まれ 何不自由なく日々を陽気に過ご
させて頂く事が出来 まことに感謝の念に堪えません

今年は四十二歳となり世に云う厄年を迎えましたので只今
から厄払いのお式をつとめさせて頂く次第でございます
厄年は壮年期の更に成熟に向かう脱皮の旬であり 一つのふ
しであると悟り お言葉通りふしから芽を出すべく 現在の
置かれた自らの役目に一層の真実を傾けると共に 進んで
は社会のため 又家族のためにはたはたを樂させるはたらきを
増して 一段と価値の高いお役がとまりますよう 自らの埃
を払い、心の成人に励みたいと存じますが 何卒打ち払う
麻のさやぎのさやさやに清々しく被い清めて 恙なく喜びに明
け喜びに暮れる厄年を通して頂けますよう 本人に代わり
慎んでお願い申し上げます